

開 会 式

開会式（中部講堂） 8日（土）13：50～15：10

ご挨拶

日本音楽教育学会会長 権 藤 敦 子
長崎大学教育学部長・教育学研究科長 藤 本 登
第56回大会実行委員長 西 田 治

招待講演

AI and Digital Transformation in Music Education:

Challenges, Evolution, and Future Pathways. 1

韓国音楽教育学会会長 Dr. Jin Ho Choi

オープニングコンサート

「長崎のうた」 2

作曲家 野 村 誠
ソプラノ 活水女子大学 福 地 友 子
アルトサクソフォン 宮 崎 大 学 酒 井 勇 也
ピアノ 西 九 州 大 学 新 井 友 梨

大 会 実 行 委 員 会 企 画 日本の音楽教育の未来を語り合う

シンポジウム（中部講堂） 8日（土）15：20～17：10

日本の音楽教育の未来を語り合う 5

○問題提起：ロバート・ウォーカー氏の6つの問いかけ

○パネルディスカッション

インクルーシブアート教育の視点	跡見学園女子大学	茂 木 一 司
作曲家の視点	作曲家	野 村 誠
哲学の視点	弘前大学	今 田 匡 彦
情報技術と音楽の視点	立教大学	井手口 彰 典
企画・進行・問題提起	長崎大学	西 田 治

常 任 理 事 会 企 画

プロジェクト研究（教育工学実験教室） 9日（日）13：30～15：00

GIGA スクール第2期に向けて 8
—音楽の学びのアップデート—

国立教育政策研究所 志 民 一 成
横浜国立大学 金 光 真理子
教育芸術社 佐 藤 貴 史
司会・進行：宮 崎 大 学 菅 裕

研 究 発 表（口頭発表）

研究発表A（21 番講義室） 8日（土）9：30～13：00

司会：笹野恵理子（関西外国語大学）・早川倫子（岡山大学）

- A－1 音楽を語り合う場のウェルビーイングへの可能性の分析 9
—ワークショップ〈てつがくオンガクかふえ〉の参加者達の体験から—
弘前大学大学院生 西 野 亜 唯
- 2 セレスタン・フレネの教育思想と音楽実践 10
—聴く活動に焦点を当てて—
和光大学 根 来 章 子
- 3 続・近現代日本音楽教師群像の研究 11
—1910年代から40年代にかけての「全国訓導（音楽）協議会」の分析—
京都教育大学 檜 下 達 也
- 4 明治後期の京都盲啞院における演奏会 12
立命館大学 丸 山 彩
- 5 1920年代以降の尋常・高等小学校「唱歌」教育の展開 13
—和歌山市と神戸市の比較から見る1926年小学校令（勅令第73号）改正の影響—
和歌山大学 菅 道 子
- 6 共通記号の共有と主体性の競争 14
—音楽教育における共振の構造的デザインに向けて—
弘前大学 清 水 稔
- 7 我が国における伴奏教育史（1） 15
—1950～1960年代に焦点を当てて—
昭和女子大学 赤 塚 太 郎

研究発表B（22番講義室） 8日（土）9：30～13：00

司会：三村真弓（エリザベト音楽大学）・有本真紀（立教大学）

B-1	戦前における盲学校初等部の点字教科書にみる記譜の変遷 —音感教育との関係に着目して—	16
	お茶の水女子大学 村 山 佳寿子	
2	中等音楽科教育の教育基準の成立過程に関する研究 —戦後占領期における学習指導要領編纂者の動きに着目して—	17
	東北大学大学院生 渡 邊 拓	
3	E.ブラウンの「開かれた形式」作品の思想と作曲実践について —歴史的意義および作品の教育的意義からの一考察—	18
	お茶の水女子大学大学院生 藤 井 愛 子	
4	戦後期における八十田歳雄の読譜指導論の特質 —国民学校期から戦後期へ—	19
	奈良女子大学大学院生・金沢大学附属小学校 徳 田 典 子	
5	米国の音楽教育をめぐる動向 —K.ヘンドリクス の著作（2018）をもとに—	20
	東京家政大学 齊 藤 紀 子	
6	唱歌「青葉の笛」を非凡・傑作たらしめているのは何か —謡曲「敦盛」と「忠度」を踏まえた批評的分析—	21
	愛知教育大学名誉教授 村 尾 忠 廣	
7	犬童球溪の作歌作品における選曲の視点について —“Erk’sDeutscherLiederschatz” 分析を通して—	22
	尚 綱 大 学 森 みゆき 愛知教育大学 国 府 華 子	

研究発表C（23番講義室） 8日（土）9：30～13：00

司会：杉田政夫（福島大学）・高須裕美（岡山大学）

C-1	芸術系教育における学習者の「非他律的態度」の応用可能性 —石井漠の「舞踊教育」の学びをめぐって—	23
	エリザベト音楽大学大学院生 沖 中 春志郎	
2	認知処理タイプに応じた授業デザインの有効性 —継次処理と同時処理に着目して—	24
	長崎市立三和中学校 篠 原 昂 太 長 崎 大 学 西 田 治	
3	ピアノ学習を通じた非認知能力の育成プロセス —学習経験者への聞き取り調査を通して—	25
	東京音楽大学大学院生 五十嵐 梨 奈	
4	合唱活動の充実と well-being に関する研究（2） —中学生の尺度モデル構成・調査結果の分析を通して—	26
	山口大学 高 橋 雅 子	

5	音楽教室講師の音楽表現への意識を探る	27
	—講師稼働前と稼働1年後を比較して—	
	東京音楽大学・ヤマハ音楽振興会 渚 智 佳	
	ヤマハ音楽振興会 馬 田 一 郎	
	ヤマハ音楽振興会 小 川 純 一	
6	中学生の歌唱における「音痴」意識に関する縦断的研究(2)	28
	—歌唱技能との関連に着目して—	
	文教大学 小 畑 千 尋	
7	イギリスの初等音楽科教育における外部音楽組織の役割	29
	—フィールドワーク及び関係者へのインタビューをもとに—	
	広島大学大学院生 井 上 リ カ	

研究発表D (24 講義室) 8 日 (土) 9:30 ~ 13:00

司会: 津田正之 (国立音楽大学)・川口明子 (岩手大学)

D-1	演奏者と聴取者の間の相互作用	30
	—音響情報の双方向性が両者の同期にもたらす効果—	
	愛知東邦大学 水 野 伸 子	
	電気通信大学 津 崎 実	
2	不安や恐怖に苦しむ演奏者: 演奏時に出現する症状の医学的定義	31
	山梨大学 赤 池 美 紀	
3	音楽の言語化と心的イメージの関連	32
	—日本語版プリモス感覚イメージ尺度 (Psi-Q) による探索的分析—	
	広島大学大学院生 北 村 慎 祐	
4	保育者養成課程における日本の郷土芸能の教材化	33
	—エイサーの導入の試みから—	
	小田原短期大学 山 本 華 子	
5	コミュニケーション・ミュージカルティ概念に基づく母子関係の質的分析	34
	エリザベト音楽大学大学院生 森 澤 麗	
6	リズムの体得過程における多様な身体感覚を伴う活動の価値	35
	—和太鼓を用いた幼児の表現活動の事例から—	
	国立音楽大学附属幼稚園 井 出 ゆりの	
7	保育者に必要な音楽表現力とは何か	36
	—学修経験・勤務経験に応じた視座の変容に着目して—	
	昭和学院短期大学 宇 杉 美絵子	

研究発表E (31 講義室) 8 日 (土) 9:30 ~ 13:00

司会: 鈴木慎一郎 (鳥取大学)・伊野義博 (新潟大学)

E-1	「イムヌス (HYMNUS)」に見る「ハンガリーらしさ (magyarság)」	37
	—ハンガリー幼児音楽教育の淵源—	
	大阪常磐会大学・奈良女子大学大学院生 小 谷 朋 子	

2	日本語・日本文化を継承する釜山学習支援活動の一考察 —わらべうたを取り入れた実践を通して—	38
	純真短期大学 中 村 智 子	
3	戦前から戦後期の保育における生活－遊び－音楽活動 —カリキュラムにおける位置づけと保育者の指導性の視点から—	39
	聖心女子大学 長 井 覚 子	
4	日本音階を感受する幼児向け即興プログラムの実践法 —《ハタガヤ・マリンバ》から生まれた《ゴジョウ・マリンバ》を題材に—	40
	大阪芸術大学 津 田 奈保子	
5	音楽するアトリエリスタの語りとまなざし —レッジョ・エミリア・インスパイアドからの提言—	41
	つくば国際短期大学 板 橋 華 子	
	つくば国際短期大学 仲 条 幸 一	
6	子どものリズム遊び表現活動からの発達の効果について —3拍子の竹踊りの活動を通して—	42
	東京福祉大学 本 野 洋 子	
7	イギリスの初等音楽教師用指導書における発展的カリキュラム —Musicianshipの概念に着目して—	43
	神戸女子短期大学 小松原 祥 子	

研究発表F（32番講義室） 8日（土）9：30～13：00

	司会：水戸博道（明治学院大学）・長山 弘（盛岡大学）	
F-1	スリランカにおける西洋音楽教員のための実技研修 —主催者へのインタビュー調査と教材の分析を通して—	44
	広島大学大学院生 カラニランガニ	
	広島大学 伊 藤 真	
2	小・中学校音楽科教科書の語彙の特徴 —指導文と解説文を中心に—	45
	広島大学 伊 藤 真	
3	国際バカロレア初等教育プログラムの音楽授業にみる「概念」の採用傾向 —	46
	早稲田大学 稲 生 涼 子	
4	小学校音楽科におけるSELの教育的可能性 —学習指導要領とSELの5領域との照合に基づく分析—	47
	川崎医療福祉大学 永 田 美奈子	
5	小学校音楽教育における発話コード開発の試み —感覚、技能、思考の統合する良い授業を目指して—	48
	桐蔭学園小学校 岩 井 智 宏	
6	フィンランドの学校教育において音楽科は何を意味するか —カリキュラム改訂プロセスの検討—	49
	東京大学大学院生 原 田 恵	

7	創造的思考力を育む鑑賞と創作のカリキュラムデザイン	50
	—《ブルタバ》からつなげる有意義な題材設定に着目して—	
	お茶の水女子大学附属中学校 向 田 瑞 貴	

研究発表G（33 番講義室） 8 日（土）9：30～13：00

司会：桐原 礼（信州大学）・瀧川 淳（国立音楽大学）

G-1	小学校における長調と短調の聴取に関わる指導の考察	51
	—同主調の楽曲を比較する活動や転調がある楽曲の指導の効果—	
	常葉大学 山 口 亮 介	
2	フィードバックを活用した音楽授業の展開について	52
	—『Visible Learning』を授業に活用する試みとして—	
	富山国際大学 湯 澤 卓	
3	音楽史に着目して見る中学校音楽教科書の内容	53
	—フレームワークの観点を用いて—	
	国立音楽大学大学院生 山野内 彩 乃	
4	エジプト・日本学校（EJS）の児童を対象とした質問紙調査	54
	—非認知能力と音楽の学習に関して—	
	弘 前 大 学 小 田 直 弥	
	東京学芸大学 森 尻 有 貴	
	東京学芸大こども未来研究所 長 澤 佳奈子	
5	中学校音楽科における組踊の鑑賞授業に関する提案	55
	—学生の模擬授業実践をもとに—	
	玉川大学 小 林 史 子	
6	音楽科における探究学習のあり方についての一考察	56
	—国際バカロレアとの関連を中心に—	
	愛知県立芸術大学 松 永 洋 介	
7	成人の音量弁別能力	57
	—モンテッソーリ教具「雑音筒」を用いた調査から—	
	名古屋女子大学短期大学部 安 藤 恭 子	
	小田原短期大学 服 部 安 里	

研究発表H（41 番講義室） 8 日（土）9：30～13：00

司会：石川眞佐江（静岡大学）・井本美穂（岡山理科大学）

H-1	小学校5・6年生の音楽科における音楽づくり活動の比較と展望	58
	—イングランドと日本の教科書教材の比較を通して—	
	鹿児島女子短期大学 水 谷 いつみ	
2	Well-beingな学校音楽教育の在り方とは	59
	—Sound Educationにおける歴史的背景と実践からの視座—	
	弘前大学大学院生・三郷市立栄中学校 石 川 裕 貴	

3	小学校における「音の重なり」の指導法に関する研究 ……………	60
	—第5学年「音の重なりを感じ取ろう」の実践を通して—	
	岐阜大学大学院生 村 山 佑 菜	
4	認知症高齢者のQOL向上をめざした音楽活動プログラムの一考察 ……………	61
	—わらべうた遊びから演劇的要素を取り入れた歌唱活動の実践分析を通して—	
	大阪音楽大学短期大学部 長谷川 真 由	
5	中学校音楽科教育におけるICT機器を取り入れた効果的な創作指導 ……………	62
	練馬区立石神井西中学校 田 中 弦 大	
6	高等学校における音楽科教員の教科観 ……………	63
	—4名の現職教員へのインタビューをもとに—	
	広島大学大学院生 島 田 奈千花	
7	創作ツールの活用における創造性育成の観点 ……………	64
	—作曲家による音楽作品評価をもとに—	
	広島大学大学院生 徳 田 旭 昭	

研究発表 I (42 番講義室) 8 日 (土) 9:30 ~ 13:00

司会：小川容子（くらしき作陽大学）・市川 恵（東京藝術大学）

I - 1	アメリカの TMU アプローチを支える理念と実践 ……………	65
	—日本の音楽教育への示唆—	
	文教大学 近 藤 真 子	
2	保育者は音楽的な保育実践力量をどのように身に付けていくのか (2) ……………	66
	—就職時点でピアノが得意ではなかった保育者へのインタビューをもとに—	
	高田短期大学 山 本 敦 子	
3	地域を見つめ直す音楽教育実践の検討 (2) ……………	67
	—岡山県内の公立小学校における即興演奏ワークショップの展開—	
	岡山大学 岡 本 伸 介	
	富山大学 増 田 建 太	
4	音環境の地図を描く ……………	68
	—ドゥルーズによる地図概念を基盤として—	
	北海道教育大学岩見沢校 金 崎 惣 一	
5	ピアノ演奏における legato の表現と身体動作の関連 ……………	69
	—聴取実験による因果関係の検証—	
	ソニーコンピュータサイエンス研究所・一般社団法人 NeuroPiano 黒 宮 可 織	
	ソニーコンピュータサイエンス研究所・一般社団法人 NeuroPiano 古 屋 晋 一	

6	バイ・ミュージカルリティを備えた音楽指導者を対象とした調査研究	70
	—「学習スキル」と「指導スキル」に着目した質的分析を通して—	
	武蔵野音楽大学 佐藤 恩 実	
	武蔵野音楽大学 山内 雅 子	
	国立教育政策研究所 志民 一成	
	東京学芸大学 山口 明 子	
	東京藝術大学 山口 裕加奈	
	文京区立第八中学校 田那辺 祐 希	
7	地域音楽教育実践の構造変化と教育的意義の再定位	71
	—FTVジュニアオーケストラ（1975-2025）の半世紀—	
	東京大学情報学環 阿高 あ や	
	東北大学大学院生 渡邊 拓	

研究発表J（43番講義室） 8日（土）9：30～12：00

司会：中地雅之（東京学芸大学）・村上康子（共立女子大学）

J-1	子どもの歌を題材にした物語の創作とピアノ編曲	72
	—保育者養成課程における授業実践からの考察—	
	名古屋女子大学短期大学部 平澤 節 子	
2	軽度知的障害特別支援学校歌唱指導における配慮・支援の傾向分析	73
	—音楽科担当教員対象の質問紙調査によって—	
	埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学園 五十嵐 悠 葵	
3	演奏会におけるアクセシビリティの実態調査	74
	—発達障害児者を対象とした海外の事例—	
	明治学院大学大学院生 中村 友 美	
4	わらべうたの音階を考える	75
	—小泉文夫、柴田南雄の理論を基盤として—	
	小田原短期大学 大田 美 郁	
	千葉大学 本多 佐保美	
5	耳からの学びの重要性、そして五線譜の役割の検討	76
	—高校音楽Iにおける『こきりこ』の授業実践を通じた伝統音楽理解の深化—	
	百合学院小学校 田澤 儀 高	

研究発表K（21番講義室） 9日（日）9：00～12：30

司会：松永洋介（愛知県立芸術大学）・新山王政和（愛知教育大学）

K-1	幼年期の発達段階に応じたわらべうたの体系づけ	77
	—身体動作による音楽的発達に着目して—	
	松本大学 安藤 江 里	
2	共鳴型教育にみる高齢期の自己変容と指導の本質	78
	—83歳の声楽家・教育者と81歳の学習者によるレッスンを通して—	
	東邦音楽大学・武蔵野音楽大学 藤川 英 子	

3	小中学校音楽科における a cappella 教材の開発 —主体的な学びの視点から—	79
	上野学園短期大学 内 田 有 一 常 磐 短 期 大 学 角 田 葵	
4	中学校音楽科授業における学習者の不安 —他者との関わりと評価されることに着目して—	80
	広島大学大学院生 福 本 晴 香	
5	情報科教員による都高音研 AI 音楽講習を活かした高校音楽創作授業の実践 —高校情報科の視点による教科横断的アプローチ—	81
	東京都立調布南高等学校 片 野 響 子 山 梨 大 学 稲 垣 俊 介	
6	高校生の自己表現力を育むミュージカル歌唱の実践 —高等学校芸術科音楽教材《レ・ミゼラブル》を通して—	82
	大阪府立福泉高等学校 北 村 優 佳	
7	音楽の学びを通してのウェルビーイングの実現に関わる研究 —実践的な検討を中心に—	83
	信州大学 齊 藤 忠 彦 信州大学 桐 原 礼	

研究発表L（22番講義室） 9日（日）9：00～12：30

司会：菅 道子（和歌山大学）・安久津太一（岡山県立大学）		
L-1	和太鼓が乳幼児にもたらす感覚と表現 —乳幼児と保護者のための遊びの広場「おまつりわっしょいトンパンボン！」—	84
	東京成徳大学 長 野 麻 子 東京成徳大学 味 府 美 香	
2	DA/LEDA メソッドについての考察 —子どものためのうたづくり体験プログラム—	85
	DA/LEDA 松 岡 久仁子	
3	保育者・小学校教員養成系大学1年生のリズム模奏力に関する研究（3） —調査と実践をとおして—	86
	比 治 山 大 学 緒 方 満 広島県立広島国泰寺高等学校 大 西 潤 一 アボアエンジニアリング 高 木 栄 次 広島大学名誉教授 吉 富 功 修	
4	オペラ演出家の「語り」からみる劇場鑑賞教育の可能性と展望 —学校教育と芸術資源との接続を目指して—	87
	東京未来大学 結 束 麻 紀	

5	高齢者と大学生のピアノ演奏ミスの比較 —視線計測による分析—	88
	京都ノートルダム女子大学 古 庵 晶 子	
	公立はこだて未来大学 竹 川 佳 成	
	函館高等工業専門学校 能 登 楓	
	公立はこだて未来大学大学院生 三 上 薫	
6	音楽リテラシー再考 —成人合唱愛好者と読譜学習—	89
	東北大学大学院生 八 木 美 華	
7	初等教育教員養成課程における図・音・国の教科横断的な学修の取り組み —音楽科の視点から—	90
	実践女子大学 小 坂 光	

研究発表M（23番講義室） 9日（日）9：00～12：30

司会：菅 裕（宮崎大学）・磯田三津子（埼玉大学）

M-1	音楽の探究における技能と表現の相互作用 —ハンス・ライグラフのピアノ指導および演奏解釈の検討を通して—	91
	愛知教育大学 田舎片 麻 未	
2	小学校音楽科授業における視聴覚教具の活用と学習形態の変容 —創作活動での資質・能力の育成に着目して—	92
	東京学芸大学大学院生 森 美 里	
3	福島県における民俗芸能と学校教育の連携に関する一考察 3 —コミュニティ・スクール西郷村立羽太小学校の 「上羽太天道念仏踊」への取組の実際—	93
	福島県二本松市立東和小学校 山 崎 純 子	
4	小学校教員養成課程「音楽科指導法」で求めるべき器楽演奏「技能」とは —授業実践の省察から—	94
	植草学園大学 高 木 夏奈子	
5	中学校音楽科の創作のためのリズムゲームを用いた作曲支援 —音楽理論に基づく評価と対話を取り入れた創作支援—	95
	広島工業大学大学院生 中 田 恭 維	
6	主体的な学びを開く学習経験の組織に関する一考察 —6年単元「Bandにチャレンジ」—	96
	徳島市大松小学校 島 田 郁 子	
7	「音楽を教える人」のライフヒストリー —小学校音楽科教師への聞き取り調査を通して—	97
	静 岡 大 学 石 川 眞佐江	
	山梨県立大学 越 山 沙千子	
	福山市立大学 古 山 典 子	
	奈良女子大学 藤 井 康 之	
	共立女子大学 村 上 康 子	

研究発表N（24番講義室） 9日（日）9：00～12：00

司会：水戸博道（明治学院大学）・国府華子（愛知教育大学）

N-1	〈仕事うた〉を文化として学ぶ —絡みの授業構造—	98
	長岡市立大河津小学校 平 出 久美子 新 潟 大 学 伊 野 義 博 名古屋音楽大学 黒 田 清 子	
2	楽器ウォーマー（ピアノ鍵盤専用及び管弦楽器専用）の研究開発 —楽器に悪影響なく安全に素早く温める楽器ウォーマー装置—	99
	フルテクニカル音楽教室 古 川 和 邦	
3	生成AIによる楽曲生成がもたらす園行事の固有性 —行事の画一性を越えようとするX幼稚園の事例分析—	100
	つくば国際短期大学 仲 条 幸 一	
4	オペラ教育部門の国際的接続と実践知の共有 —1980年代におけるメトロポリタン・オペラ・ギルドと ロイヤル・オペラ・ハウスの組織間協働の試み—	101
	芸術文化観光専門職大学 大 野 はな恵	
5	芸術ワークショップにおける3者協働 —アーティスト・エデュケーター・アートマネージャーによるAMEモデル提案—	102
	西九州大学 新 井 友 梨 活水女子大学 福 地 友 子	
6	音楽の本質につなげるプレイフル・ラーニング —遊びの要素を込めた常時活動から「響きのある声」を探る学習の有効性—	103
	神奈川県大和市立光丘中学校 平 石 孝 太	

研究発表O（32番講義室） 9日（日）9：00～12：30

司会：山本耕平（交野支援学校四條畷校）・小畑千尋（文教大学）

O-1	教員養成課程の学生における音楽リテラシーの実態 —拍子判別に関わる事前学習の効果—	104
	帝京大学 田 崎 教 子	
2	学業とピアノの両立 —非ピアノ専攻者に着目して—	105
	神戸大学大学院生 渡 辺 佑	
3	鳥取県初の新民謡《三朝小唄》の特徴 —島田豊にも着目して—	106
	鳥取大学 鈴 木 慎一朗	
4	聴く力と演奏技術の乖離について —言語学習の過程から考える器楽学習の指導法—	107
	兵庫大学短期大学部 高 井 翔 海	

5	教師の実践からみる音楽科教育における批評活動 —教師が音楽科で育成したい力との関連から—	108
	東京学芸大学院生・共立女子大学 末 廣 杏 里	
6	Interactive Musical Education for Creative Thinking Centered on Sondheim's Musical 'Sunday in the Park with George'	109
	Sanghak University Son Min-hye	
7	曲を和音から音楽的に弾く方法 —『大学ピアノ教本』で「たまりメソッド」の音の重なりから考える—	110
	愛知学泉大学 玉 護 眞理子	

研 究 発 表 (ポスター発表)

研究発表P (教育学実験教室) 8日 (土) 11:30 ~ 12:30

* 奇数番号 = 11:30 ~ 12:00, 偶数番号 = 12:00 ~ 12:30

座長: 古山典子 (福山市立大学)・千葉修平 (青森明の星短期大学)

P-1	昭和初期に開始した自由学園音楽教育実験「絶対音音楽早教育」の成果 —関係者による感想からの検証—	111
	帝塚山大学 瀧 田 陽 子	
2	わらべうたで遊ぶ幼児の歌声 —異年齢の集団における事例報告—	112
	金城大学 枝 村 美 夏 金城大学 岡 部 智 子	
3	幼児の音楽的エージェンシーの検討 —楽器をPlayする場面の観察事例から—	113
	東京学芸大学 水 崎 誠	
4	音楽を通した子どもの成長とは —音楽教室でのピアノ指導を通した保護者の子どもの成長に対する想い—	114
	小田原短期大学・厚木楽器 相 原 絵利那	
5	幼児の創造的な音楽表現活動に関する研究 (3) —保育者は幼児の姿をどのように捉えたのか—	115
	名古屋市立大学大学院生 南 谷 悠 子	
6	中学校・高等学校における学習指導要領4分野の学習経験の調査研究 —2024年の調査結果について—	116
	仙台大学 橋 本 智 明 仙台大学 山 口 恭 正	
7	保育におけるアコーディオンの活用と指導法の研究 —鍵盤楽器初心者の弾き歌いの検討—	117
	佛 教 大 学 臼 井 奈 緒 佛教大学学部生 中 野 功太郎	

8	高等学校における合唱部活動の意義と課題 118	
	—合唱部活動を経験した学習者へのインタビューを通して—	
		東京藝術大学大学院生 角 田 沙 和
9	音楽科における「創造性」育成の歴史的検討 119	
	—戦後昭和期の学習指導要領の記述に着目して—	
		国立音楽大学大学院生 関 彩 乃
10	習得・活用・探究を視点とした音楽づくりの授業設計 120	
	—J-POPを用いた教材開発を通して—	
		宮城教育大学大学院生 成 田 紫 音
11	ループリックの開発プロセスにおけるモデレーションの意義 121	
	—音楽科授業におけるパフォーマンス課題・評価の実践が内包する 課題をもとに—	
		富山大学 多 賀 秀 紀
		富山大学 増 田 建 太
12	中学校音楽科における身体性の理論の応用 122	
	—「からだメタ認知」に焦点を当てて—	
		東京学芸大学大学院生 大 堀 さ ち

研究発表Q（教育工学実験教室） 9日（日） 11：30～12：30

* 奇数番号 = 11：30～12：00, 偶数番号 = 12：00～12：30

座長：高橋雅子（山口大学）・今川恭子（聖心女子大学）

Q-1	幼児のリズム遊びから見る音楽的要素と身体的要素の関連 123	
	—「さくらさくらんぼのリズム遊び」より—	
		名古屋柳城短期大学附属豊田幼稚園 深 松 佳 範
2	保育者養成校における学内コンサートの意義 124	
	—トマス・トゥリノによる「参与型」を軸に—	
		千葉明德短期大学 大 澤 ちづる
3	リアルタイムで協働的な創作活動を実現するアプリケーションの検討 125	
	—学校に登校することが困難な学習者の学びを保障するために—	
		盛 岡 大 学 長 山 弘
		宮城教育大学 木 下 和 彦
4	日中の中学校音楽科における鑑賞教育の比較研究 126	
	—日本と中国の中学校教科書（最新版）からの考察—	
		国立音楽大学大学院生 沈 求
5	生成AIを活用した小学校音楽科授業の実践的検討 127	
	—鑑賞領域の学習を中心に—	
		東京学芸大学附属小金井小学校 忒 山 恵
6	社会包摂を志向したアウトリーチにおけるプログラミング 128	
	—子どもの居場所づくりに取り組む場での実践に着目して—	
		東京藝術大学 萩 原 史 織
		東京藝術大学 船 越 理 恵

7	若手研究者が考える「わらべうた」のこれからⅢ —〈うたう・きく・つくる・のこす〉をキーワードに—	129
	桃山学院大学 山 口 聖 代 横浜国立大学 伊 藤 裕 来 千里金蘭大学 伊原木 幸 馬	
8	現代音楽の演奏体験から得られたもの —学部生による2014-2018年の演奏会記録と追跡調査を踏まえて—	130
	兵庫教育大学連合大学院生・金沢大学 浅 井 暁 子 上越教育大学 時 得 紀 子	
9	保育者研修から見える実践者の音楽的な気づき —自己評価データに基づく意識変化—	131
	岡山大学 高 須 裕 美	
10	管楽器の管内環境に関する研究 —管内における水滴発生調査—	132
	摂南大学 釣 本 聖 司	
11	音楽科におけるICTを活用した創作活動の一考察 —ニュージーランド・シンガポール・日本の実践事例から—	133
	小田原短期大学 時 得 里 彩	
12	子どものコンピュータ音楽活動 —小学校児童の過去15年間の変化—	134
	名古屋芸術大学 星 野 英 五	

共 同 企 画

共同企画Ⅰ ラウンドテーブル（21番講義室） 8日（土）15：20～16：50

自国の伝統音楽や世界の多様な音楽の授業づくり・指導法の再考	135
千葉大学 本 多 佐保美	
信州大学 桐 原 礼	
小田原短期大学 大 田 美 郁	
岡山大学 早 川 倫 子	
新潟大学 伊 野 義 博	

共同企画Ⅱ ラウンドテーブル（22番講義室） 8日（土）15：20～16：50

身体性からとらえた口唱歌の機能と役割 —貫井雛子とバツカードの口唱歌を事例としながら—	136
山梨学院短期大学 田 邊 裕 子	
東京学芸大学附属竹早中学校 中 野 未 穂	
東京音楽大学 加 藤 富美子	

共同企画Ⅲ ラウンドテーブル（31 番講義室） 8 日（土） 15：20 ～ 16：50

戦後の学校音楽教育 80 年を考えるⅡ 137

—「平和と音楽教育」はいかに語られ紡がれてきたか：「生きられた」戦後学校音楽—

関西外国語大学	笹 野 恵理子
長崎県オペラ協会	富 永 宏 美
長崎純心大学	岩 瀬 由 佳
国立音楽大学	津 田 正 之
埼玉大学	磯 田 三津子
福島大学	杉 田 政 夫
和歌山大学	山 崎 由可里

共同企画Ⅳ ラウンドテーブル（23 番講義室） 8 日（土） 15：20 ～ 16：50

学校教育における音楽の役割と意義 その 5 138

—ペンタトニックの共通性と独自性—

エリザベト音楽大学	三 村 真 弓
東京大学芸術創造連携研究機構	坪 能 由紀子
弘前大学大学院生	王 中 意
宮城教育大学	木 下 和 彦

共同企画Ⅴ ラウンドテーブル（24 番講義室） 8 日（土） 15：20 ～ 16：50

音楽科における協調学習の可能性 139

—子どもの学びの見とりを中心とした授業実践に向けて—

東京藝術大学	市 川 恵
東京藝術大学・聖心女子大学	泉 碧 衣
横浜市立都田小学校	今 村 行 道
鎌倉女子大学短期大学部	後 藤 俊 哉
聖心女子大学	今 川 恭 子
聖心女子大学・一般社団法人教育環境デザイン研究所	齊 藤 萌 木

共同企画Ⅵ ラウンドテーブル（33 番講義室） 8 日（土） 15：20 ～ 16：50

公教育における「音楽の読み書き」指導の意義と方法 140

—〔共通事項〕の本質化のためのコダーイ・アプローチ—

川村学園女子大学名誉教授	尾 見 敦 子
兵庫教育大学名誉教授	木 下 千 代
東京家政大学	宮 祐 子
金城大学	枝 村 美 夏
埼玉学園大学	東 元 り か
小田原短期大学	渡 邊 さらさ

共同企画Ⅶ ワークショップ（41 番講義室） 8 日（土） 15：20～16：50

ヴィヴァルディ作曲《四季》より〈冬〉を題材にしたミュージッキング 141
ーテクノロジーと人が織りなす表現を融合させた参加・協働型ワークショップー

武庫川女子大学・立命館大学大学院 壽 谷 静 香
北海道教育大学旭川校 芳 賀 均
北海道教育大学釧路校 森 健一郎
北海道教育大学大学院生 盛 田 祥 史
北海道教育大学大学院生 原 田 友 翔
横浜国立大学 有 元 典 文
岡山県立大学 安久津 太 一

共同企画Ⅷ ラウンドテーブル（31 番講義室） 9 日（日） 9：00～10：00

学会企画研究報告「小・中学生の生活と音楽に関する調査2024」 142
ー現代の子どもの音楽環境・音楽経験を探るー

学会企画研究「質問紙調査部会」
滋賀大学名誉教授 杉 江 淑 子
東京藝術大学 市 川 恵
アーツカウンシル東京 船 越 理 恵

共同企画Ⅸ ラウンドテーブル（33 番講義室） 9 日（日） 9：00～10：00

教養教育における音楽教育の可能性について考える 143
ー大阪観光大学「音楽で『旅』するコンサート」を出発点にー

大阪観光大学 速 水 聡 子
千里金蘭大学 伊原木 幸 馬

共同企画Ⅹ ラウンドテーブル（41 番講義室） 9 日（日） 9：00～10：30

1 歳児の楽器あそびから考える音楽表現カリキュラム 144

共立女子大学 村 上 康 子
聖心女子大学 今 川 恭 子
駒沢女子大学 丸 山 慎
東京学芸大学 水 崎 誠

共同企画Ⅺ 調査報告（43 番講義室） 9 日（日） 9：00～10：30

視線解析と音楽鑑賞活動 145
ー理解を深める学習支援のあり方ー

くらしき作陽大学 小 川 容 子
福山市立大学 古 山 典 子
岡 山 大 学 早 川 倫 子
岡山理科大学 井 本 美 穂
鳥取短期大学 仙 田 真 帆

共同企画Ⅱ ラウンドテーブル（33 番講義室） 9 日（日） 11：00 ～ 12：30

後期資本主義の音楽教育 146

—模倣欲望，記号消費，そしてサウンドスケープの地平—

弘前大学 今 田 匡 彦
琉球大学 塚 原 健 太
青森明の星短期大学 千 葉 修 平

共同企画Ⅲ ラウンドテーブル（21 番講義室） 9 日（日） 13：30 ～ 15：00

音楽教師のアイデンティティを再考する 147

—ミュージシャンかエドゥケーターか—

横浜国立大学 森 野 かおり
関西福祉科学大学 藤 山 あやか
横浜国立大学名誉教授 小 川 昌 文
横浜国立大学 有 元 典 文

共同企画Ⅳ ラウンドテーブル（22 番講義室） 9 日（日） 13：30 ～ 15：00

吹奏楽部における部活動地域展開の未来を考える 148

—生徒にとっての吹奏楽活動の在り方に着目して—

国立音楽大学大学院生 村 上 真亜瑠
国立音楽大学大学院生 泉 幹 大
つくば市立みどりの学園義務教育学校長 山 田 聡
静岡大学名誉教授 北 山 敦 康

共同企画Ⅴ ワークショップ（31 番講義室） 9 日（日） 13：30 ～ 15：00

音や音楽を題材にしたSTEAM教育とその活用可能性 149

—地域・環境・防災等の学習や芸術と科学の融合—

北海道教育大学旭川校 芳 賀 均
北海道教育大学釧路校 森 健一郎
北海道教育大学大学院生 盛 田 祥 史

共同企画Ⅵ ラウンドテーブル（33 番講義室） 9 日（日） 13：30 ～ 15：00

科学館における「科学と音楽をつなぐワークショップ」の実践 150

—つくってみよう電子楽器・電子音楽—

京都教育大学 増 田 真 結
京都教育大学 檜 下 達 也
大阪市立科学館 上 羽 貴 大
アートマネージャー 村 上 理 恵

共同企画Ⅶ シンポジウム（21番講義室） 9日（日）15：10～16：40

音楽における忘却の構図 151

—学校儀式・キリスト教・マスメディアは何を教えたか—

立教大学 有本 真紀

ジャーナリスト 中村 尚樹

元東京藝術大学大学史史料室 認証アーキビスト 橋本 久美子

共同企画Ⅷ ラウンドテーブル（22番講義室） 9日（日）15：10～16：40

音楽づくり／創作の授業におけるさまざまな協働の可能性 152

—中高音楽創作プロジェクト（2）—

東京大学芸術創造連携研究機構 坪 能 由

紀子 日本大学 鶴岡 陽子

北海道教育大学岩見沢校 金崎 惣一

大阪芸術大学 津田 奈保子

共同企画Ⅸ ラウンドテーブル（23番講義室） 9日（日）15：10～16：40

Bordercrossings：新たな創造や可能性が生まれる場 153

—子どもの発想・創造を広げる活動の可能性と教育的意義—

文教大学 近藤 真子

淑徳大学 熊倉 佐和子

京都教育大学附属桃山小学校 高橋 詩穂

筑波大学附属小学校 平野 次郎

熊本市立必由館高等学校 中島 千晴

加須市立不動岡小学校 清水 葉子

共同企画Ⅹ ラウンドテーブル（24番講義室） 9日（日）15：10～16：40

現行学習指導要領を総括する 154

—歌唱共通教材について考える—

国立音楽大学 津田 正之

宮崎大学 菅 裕

佛教大学 高見 仁志

信州大学 齊藤 忠彦

共同企画Ⅺ ラウンドテーブル（32番講義室） 9日（日）15：10～16：10

クリエイティヴ・アーカイヴと音楽教育の接点を探る 155

—小泉文夫記念資料室の活用に関心をあてて—

東京芸術大学 尾高 暁子

東京音楽大学 加藤 富美子

広島大学 権藤 敦子

共同企画XXII ラウンドテーブル（31 番講義室） 9 日（日）15：10～16：40

相対音感に基づく鍵盤楽器教育 156

洗足学園音楽大学 牛 頭 真 也
目 白 大 学 小 林 恭 子
埼玉学園大学 東 元 り か
元埼玉学園大学 山 本 幸 正
小田原短期大学 渡 邊 さらさ

共同企画XXIII ラウンドテーブル（33 番講義室） 9 日（日）15：10～16：40

「身体知」としての音楽の学びの可能性 2 157

—中等教科教育法（音楽）の授業にみる学生の音楽観・学習観の変化をめぐって—

横浜国立大学 金 光 真理子
横浜国立大学 伊 藤 裕 来
横浜国立大学 森 野 かおり

共同企画XXIV ラウンドテーブル（41 番講義室） 9 日（日）15：10～16：40

戦後の学校音楽教育80年を考える I 158

—制度，実践，音楽文化の歴史的変遷を通して—

和 歌 山 大 学 菅 道 子
東京学芸大学 中 地 雅 之
交野支援学校四條畷校 山 本 耕 平
洋楽文化史研究会 戸ノ下 達 也
福 島 大 学 杉 田 政 夫
関西外国語大学 笹 野 恵理子

共同企画XXV ラウンドテーブル（42 番講義室） 9 日（日）15：10～16：40

中学校音楽系部活動を「音楽を学べる場」として地域へ移行するために 159

—実証事業「地域クラブ活動」の報告にもとづく課題整理と情報共有—

愛知教育大学 新山王 政 和
静岡大学名誉教授 北 山 敦 康
東京未来大学 竹 内 貞 一

院 生 フォ ー ラ ム

院生フォーラム（教育工学実験教室） 9日（日）10：00～11：00

自身の研究が音楽教育の未来といかにつながるのか 160

企画・進行：長崎大学／

弘前大学大学院生 西 田 治

大会実行委員担当者： 福岡教育大学 鶴 岡 翔 太

常 葉 大 学 山 口 亮 介

長崎市立三和中学校 篠 原 昂 太